

古賀 千聖

所属大学：佐賀女子短期大学 地域未来学科
グローバル共生コース

県内インターンシップ先：(株)佐賀広告センター

留学先：チェルトナム（イギリス）

留学期間：2018/9/10～2018/11/30

受入機関名：グロスタシャーカレッジ



活動概要と成果

この留学の目的は、特技の民謡を活かして、海外に佐賀のファンを増やし、訪れる動機をつくることである。主な活動の内容は①JAPAN MATSURI というロンドンの中心で行われた日本の文化を発信するイベントに参加をして地元大学の民謡サークルの一員として民謡を披露した。②DokiDokiManchester という主に日本のサブカルチャーを発信するイベントで民謡の披露をした。③事前インターンシップで自作した私が考える佐賀の魅力的な所を載せたチラシを色々な所で配って（約 110 枚）佐賀をアピールした。④ロンドンで活躍されている演歌歌手の方、津軽三味線の奏者の方とともにコンサートを行った。

この活動により、今まで佐賀を知らなかったイギリスに住む人に佐賀を知ってもらうことができた。「今度日本に行くときは佐賀にも遊びに行くよ」と言ってくれた人もいた。また日本文化に興味がある人でも「民謡」を知る人は少なかった。イギリスに住む多くの人に民謡ひいては日本文化に興味を持ってもらうきっかけ作りが出来、日本、佐賀のファンを増やすことができたと考える。

日本発信プロジェクト活動概要と成果

OSushi&Japanese folk song singing party の開催

—実行したこと

通っていた大学（グロスタシャーカレッジ）での日本文化を発信するイベントの開催。日本の良さや、佐賀県の魅力を共に学ぶ友人や先生に知ってもらいたいと思い、直接学校の支援課に企画案をメールをして実施させてもらった。イベントでは①日本食で一番人気の寿司の作り方を教え、参加者で作ったり②佐賀の自然や観光地を紹介する映像を上映、③日本民謡を披露した。また事前にイベント開催のポスターを掲示し宣伝をした。

ー成果・気づいたこと

留学生を中心に10名ほどの学生や先生がイベントに参加。寿司の作り方を教える時も質問をしてくれたり、熱心にメモを取ってくれたり、とても興味を示してくれた。また佐賀のプロモーションビデオを流した時には歓声が上がリ、海外の人がどんなところを魅力に感じるのかということを知ることができた。民謡を初めて聞いてもっとほかの民謡を聞いてみたいとも言ってもらえ、民謡の良さを広めることができた。このイベント後のアンケートから佐賀を知らない人がほとんどで、「もっと早くこんなに魅力的な所を知りたかった」という意見があった。まだ日本は東京や大阪といった大都市のほうが知名度が高く、海外の観光客が多い。もっと世界に地方の魅力を発信したら観光客が増えるのではないかと思った。

留学中及び帰国後の活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと

留学を通して主体的に行動することの大切さを学んだ。ロンドンの中心トラファルガースクエアで行われた JAPAN MATSURI に参加することを、留学の活動計画の一つにした時、イベント自体がとても大きいので正直出られるのかと不安だった。事前研修で留学計画を同じグループの人たちに伝えたとき、「どのような手段使ってもこのイベントにはでるべきだ！」と背中を押してもらったこともあり、自らの力で、できる限り事前練習をしておこうと決心した。色々調べ、地元大学の民謡サークルが JAPAN MATSURI に出場することを知った。ダメもとでもやってみようと思い、連絡を取ると、なんと快く民謡グループの一員として JAPAN MATSURI に参加することを受け入れてくれた。このことから主体的に動けば、出来ないと思いこんでいたことも出来ることがあると実感した。これをきっかけに固定観念を持たずに、自分から行動することが大事だと思った。

事前・事後インターンシップの活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと

インターンシップでは、人々を惹きつける広告の作り方の基礎を学ぶことができた。広告代理店にお世話になり、自作の佐賀チラシを作らせていただいた。最初は簡単にできるだろうと思っていたが、いざ作り始めてみると内容を考えたり、レイアウトを考えたりという作業が複雑でとても難しく挫折しそうになった。社員の方はとても優しく、忙しい仕事の合間に様々なアドバイスをしていただいた。私が作ったものを見てもらって少しだけレイアウトやフォントにアドバイスをもらって修正したらとても見やすいものになって驚いた。その甲斐もあって無事にチラシを完成させ留学先で配ることが出来た。イギリスでは、私が作っ

たチラシを見て「佐賀は魅力的な所がたくさんあるね」と言ってもらった。やはりプロの方の仕事は違うと思った。インターンシップで広告業について興味を持つこと誇りを持って仕事をされている方たちを見て私も同じように仕事をしたいと感じた。

トビタテで得た経験を踏まえ、今後どのように地域貢献をするか

トビタテ留学を通して様々な経験をし、私自身とても成長できた。イギリスで環境問題に考える機会があり、そこからSDGsにも興味を持ち、グローバルな視点で物事を考えることが出来るようになった。たくさんの人に手助けしていただき、人の縁の大切さに気づき、主体的に行動することの大切さを学ぶことができた。

今後は、学校の先生方や留学先でお世話になった方々、地元佐賀への恩返しをしたい。そこで私は佐賀に来た留学生たちが困っているときは手助けをしたり、佐賀の観光地に連れて行って佐賀を好きになってもらいたい。また、地域で行われている様々なイベントに参加をして、佐賀を盛り上げたい考えている。私のような学生が、様々な取り組みをすることで、少しでも地域の活性化につなげていきたい

あなたにとっての留学の価値

私にとっての留学の価値は、自分の可能性を知ることが出来るものだと思う。留学をする前は自己肯定感が弱い人間で自分に自信がなかった。今までの人生で私は「これを一生懸命頑張った」というものがなかったからだ。そんな中、トビタテの制度に出会った。就職活動をしてそのまま自分の中での頑張ったという成果がないまま短大を卒業することに違和感を覚えた私は、トビタテに挑戦しようと思った。自分の中で何かが変わるかもしれないと思ったからだ。そして留学をすることが決まった。9期唯一の短大生ということに私は、自信を持って短大生活は2年間だけだがやる気があれば自分の可能性を広げることができるということを証明しようと思った。留学先では何事にも挑戦して、主体的に取り組んだ。その結果自分が胸を張って頑張ったといえる留学にすることが出来た。自分もやればできるんだと思うことが出来た。もし留学をしていなかったら間違いなく自分の様々な可能性に気づけてなかったと心から思う。これからも自分の可能性と『違和感を大事に』生きていこうと思う。